

令和 7 年 10 月の解説（週間天気予報）

【10 月の天候状況】

上旬は、北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わったが、北・西日本では高気圧に覆われて晴れた日が多く、北日本日本海側と北・西日本太平洋側の旬降水量はかなり少なかった。また、北日本日本海側では旬間日照時間がかなり多かった。西日本では、3 日から 4 日にかけて本州付近を通過した低気圧や前線の影響で大雨となった所があり、3 日には長崎県の厳原で日降水量 278.0mm を観測し 10 月の極値を記録した。また、9 日には、本州の南岸を通過した台風第 22 号の影響で、伊豆諸島では暴風や大雨となった所があり、伊豆諸島南部では線状降水帯が発生した。沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れた日が多く、旬降水量はかなり少なく、旬間日照時間平年比は 160%と 1961 年の統計開始以降 10 月上旬として 1 位の多照となった。旬平均気温は、暖かい空気に覆われやすく、低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ日もあったため、全国的にかなり高かった。旬平均気温平年差は、北日本で+2.2℃、西日本で+3.0℃、沖縄・奄美で+2.9℃となり、1946 年の統計開始以降 10 月上旬として、沖縄・奄美では 1 位、北・西日本では 1 位タイの高温となった。

中旬は、北・東・西日本では、北日本と東・西日本日本海側を中心に、低気圧や停滞前線、湿った空気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かった。旬間日照時間は、北日本太平洋側と東日本日本海側でかなり少なく、北・西日本日本海側と東・西日本太平洋側で少なかった。旬降水量は北・東・西日本日本海側と北日本太平洋側で多かった。13 日には、台風第 23 号の影響を受けた伊豆諸島で大雨となった。沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れた日が多く、旬間日照時間はかなり多かったが、期間の終わりに湿った空気の影響を受けた日があり、旬降水量は多かった。旬平均気温は、東・西日本では、暖かい空気に覆われやすく、低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ日があったため、沖縄・奄美では、暖かい空気に覆われやすく、晴れた日が多かったため、かなり高かった。旬平均気温平年差は、西日本で+4.6℃、沖縄・奄美で+2.8℃となり、1946 年の統計開始以降 10 月中旬として 1 位の高温となった。12 日には、鹿児島県の肝付前田で、歴代で最も遅い猛暑日を観測した。

下旬は、期間前半には、強いシベリア高気圧が西日本付近まで張り出すとともに、日本の南には前線が停滞した。期間後半には、低気圧と高気圧が交互に日本付近を通過し、低気圧通過後には北日本には寒気が流れ込んだ。このため、全国的に曇りや雨の日が多く、旬間日照時間は全国的に少ない所が多く、北日本日本海側と沖縄・奄美ではかなり少なかった。沖縄・奄美では、旬間日照時間平年比が 43%で、1961 年の統計開始以降、10 月下旬として最も少なかった。旬降水量は、熱帯低気圧や湿った空気、停滞前線の影響を受けた沖縄・奄美ではかなり多かった。旬平均気温は、寒気の影響を受け、また、晴れの日が少なかった北・東日本でかなり低かった。一方、停滞前線の南側に位置し、暖かい空気に覆われやすかった沖縄・奄美ではかなり高かった。

【10 月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7 日目平均)は、例年値(注)より 4 ポイント低い 73%となった。地方別の適中率では、関東甲信、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部の各地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値と同じか例年値を上回っ

た。

最高気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値より 0.1℃大きい 2℃で、全ての地方で例年値と同じか例年値を上回った。また、最低気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値より 0.2℃小さい 1.6℃で、全ての地方で例年値と同じか例年値を下回った。

(注) 例年の値は、2015 年～2024 年の平均値です。

【12 月の週間天気予報の利用にあたって】

12 月は、本格的な雪の季節の始まりとなります。北日本では雨よりも雪となる日が次第に多くなり、天気予報では降水が雪となるか雨となるかが重要なポイントとなります。天気予報では、「雪」や「雨」という予報だけではなく、雪になる地域や時間帯の割合が大きいときは「雪か雨」、また、雨になる割合が大きいときは「雨か雪」と発表しています。これにより雪の可能性がわかりますので、雪への早期の備えに週間天気予報の情報をご活用ください。